

2026年度ゼミ（演習3A／演習3B）要覧

担当者名	久保田 浩
演習テーマ	「宗教」とは何か？
内容と 卒業論文の 指導方針	「宗教」をキーワードとして、各自が関心をもつ事象について問い合わせを立て、資料を探し出し、分析し、その成果を卒業論文としてまとめる。学術論文と学問的分析・論述の特徴を把握したうえで、これまで学んできた学問的な思考をフルに働かせつつ、同時に履修者全員の協働的営為を通して、各自の卒業論文を完成させる。
メール・アドレス	frhkubot@k.meijigakuin.ac.jp
オフィス・アワー	メールにて連絡してください。
授業概要	① 宗教文化に関する学術論文（英語）を講読しながら、文化研究としての学際的な宗教研究・宗教学の分析方法について理解を深める。 ② 研究テーマ紹介、中間報告、最終報告等複数回の発表を通して、各自の研究の問題提起と分析内容を履修者全員で共有し、協働して批判的検討を行う。それをさらに各自の研究へとフィードバックする。
学習目標	① 学術論文の学術的かつ社会的意義を理解した上で、論文執筆の手続きを身につけ、卒業論文を完成させる。 ② 多文化共生社会の実現にとって、「宗教」が有する問題と可能性を批判的かつ共感的に理解する能力を身につける。 ③ 「宗教」を契機として、現在の社会と文化の問題点を見抜く能力を獲得する。
授業計画	【春学期】（数字は週を示す） 1 導入（卒業論文執筆に向けての心構え）、2 研究テーマの紹介、3～6 学術論文講読・討議、7～9 研究計画案の提示と検討、10～13 卒業論文の中間報告① 【秋学期】（数字は週を示す） 1～4 学術論文講読・討議、5～8 卒業論文の中間報告②、9～12 卒業論文最終報告、13 総括討議
予習	英文学術論文の精読、レジュメの作成等発表の準備。
復習	発表の振り返り、次回の発表に向けての継続調査、論文執筆。
授業に関する 注意事項	講読論文の担当回発表準備だけでなく、各自の論文執筆に際してもグループで協働作業を行う。グループ内での意思疎通が重要視される。
教科書	小熊英二『基礎からわかる 論文の書き方』講談社（2022年）。戸田山和久『新版 論文の教室—レポートから卒論まで』（2012年）。
成績評価の基準	【春学期】複数回の発表（50%、講読担当発表、研究報告等）。提出物（50%、卒業論文の中間報告書）。 【秋学期】議論への参加度（30%）、複数回の発表（40%、講読担当発表、研究報告等）。レジュメ（30%）。
認定留学期間中の 遠隔指導	可（ただし、要事前相談）